



## 男同士の九州紀行 / 太宰府編

2003年10月1日掲載

かねてから、会社の後輩と九州へ行く約束をしていた。東京から九州まで、格安航空券をうまく使えばわずか1万円で行けるからだ。

なかなかタイミングが合わず2か月ほど時期が延びたが、ようやくチャンス到来！ 9月になって、旅行が実現した。

行程は、1泊2日。2001年3月に掲載した「[九州ラーメン紀行](#)」とほぼ同じである。ただ、このときと違う部分がある。

それは、行きの飛行機の時間。本当はもう少し遅い時間の便をとりたかったのだが、空いていたのは羽田7:20発の便しかなかったのだ。

この時間では、福岡着が9:00。ちょっと早い。

1日目、会社の後輩を車で迎え、羽田に到着。チェックインを済ませ、金属探知器をくぐる。

私は何の問題もなく通過できたが、問題は後輩。しっかりアラームが鳴ってしまったのだ。

携帯用の金属探知器に切り替え、くまなくボディチェック。どうも、ベルトのバックルと、ベルトに植えられたリベットで反応したようだ。

飛行機に搭乗し、1時間40分ほどのフライトで福岡空港に到着。このとき、実にソフトに着陸したのだ。

何しろ、着陸時のショックは全くなし。今まで何度か飛行機に乗ったが、ここまでふんわりと着陸したのは初めてである。

空港からは、地下鉄に乗り換えて天神へ。とりあえずは朝ご飯を買い、西鉄に乗る。目指すは太宰府天満宮である。

車内で朝ご飯を食べ、西鉄二日市で太宰府行きに乗り換え。そして5分で太宰府に到着した。

太宰府天満宮は高校の修学旅行以来だから、13年ぶり。ちなみに、後輩は九州上陸そのものが初めてらしい。

それにしても、日差しが痛いくらいに暑い。駅から天満宮まで徒歩でわずか5分の道のりだが、そんな短時間でもクラクラする。

境内に入り、参拝。もらったパンフレットに



は参拜の方法が書いてあったが、それを見ずに我流でお参りしてし

まった。

あまりに暑いので、境内にある宝物殿に涼みに入る。300円を払い、中を見学する。

数ある展示品の中でも、後輩は名刀「村正」に釘付け。彼は密かに日本刀が好きらしい。

太宰府をあとにし、再び西鉄で福岡市内へ。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



## 男同士の九州紀行 / 福岡市内編

2003年10月9日掲載

会社の後輩との九州紀行をお送りしているが、今回は2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

天神に到着した我々はバスに乗り、博多埠頭へ向かう。わずか10分ほどで、博多埠頭に到着した。

ここでも後輩にハプニング発生！ 運賃を支払うとき、おつりが発生する場合はあらかじめ車内で両替をしておかなければならないのだが、彼はそれを知らずに運賃箱に投入してしまったのだ。

バスの運転手は、多く支払った20円分の伝票を書き後輩に渡した。後輩は、伝票を九州に来た記念にするらしい。

博多埠頭では、ポートタワーに上る。何しろ、タダで福岡市内を一望できるのだ。

この日の九州は暑く、最高気温は34℃。展望台は涼しいと思いきや、ただ窓が開いているのみである。

まあ、海沿いで高さはあるので風は抜けるのだが、いかんせんいまいち涼しくない。

ポートタワーを下り、すぐそばのベイサイドプレイスへ。ここでも後輩はハプニングに襲われた。

外人のパツキンのねえちゃんがよそ見をしていて、後輩にぶつかりそうになった。そして「Oh, I'm sorry」と英語でわびられたのだ。

「いやー、まさか英語でわびられるとは思わなかった」と、後輩の感想である。



時刻はそろそろお昼時、腹が減る時間である。キャナルシティまでバスで向かった。

キャナルシティ最寄りのバス停に着いたものの、ちょっと迷ってしまった。し

かも、この炎天下の中である。

しかし、ほどなくキャナルシティに到着。中のステージでは、プラスバンドの演奏が行われていた。

キャナルシティ内で昼食をとり、散策。宿のチェックインが15時なので、それまで時間をつぶさなくてはならないのだ。

キャナルシティを散策し、バスで天神へ。天神のデパートでおみやげを買い、歩いて宿へ向かう。

今回の宿は、2001年3月に掲載した「九州ラーメン紀行」と同じところである。実は、ここは施設が新しい割に安いのだ。

宿に着き、チェックイン。灼熱地獄の中動き回った我々は、すっかり体力を消耗してしまった。

夕方の涼しくなる時間まで、しばしの休憩をとることに。この続きは[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



## 男同士の九州紀行 / 長浜屋台編

2003年10月15日掲載

会社の後輩との九州紀行も、今回は3回目。1回目は[こちら](#)から、2回目は[こちら](#)からどうぞ。

最高気温34度の炎天下を動き回っていた我々は、チェックイン直後のホテルで休憩をとった。2時間ほどボーっとテレビを見て、体力を回復させる。

そして、ようやく日も傾きはじめ、気温も若干ではあるが涼しくなった。いよいよ、長浜の屋台に繰り出すことにしたのだ。

天神南でバスに乗り、長浜の最寄りである平和台で下車。平和台といえば、その昔平和台球場があったところでもある。

その名残か、信号にある交差点名の表示には「平和台」と、妙に文字が左に寄っている。たぶん、「球場前」という文字を隠しているのだろう。

長浜の屋台に到着。6時過ぎで時間がまだ早いせいか、客足もまばらである。

実に2年半ぶりの、本場の長浜ラーメンなのだ！屋台に腰掛け、後輩と祝杯を挙げるとはいえ、後輩は下戸なのでコーラで乾杯である。

後輩は替え玉を頼み、私はぎんなんの串焼きや鶏の唐揚げ、梅酒のロックを頼む。やっぱり屋台はいいねえ!!

屋台から外の道路を見ると、いろいろなナンバーの車を見る。九州近県の車ならともかく、たまに足立ナンバーや群馬ナンバーなど、関東のナンバーも走っているのだ。

後輩と2人で「これじゃあ九州に来た気がしない」と、妙に納得。それでも、屋台の豚骨ラーメンで、九州であることを自覚する。

後輩も満腹になり、私も上機嫌。屋台を満喫して、宿に帰ることにした。

せっかくなので、宿まではタクシー。「KBCを通りますか？」と運転手に聞かれるが、地元ではないので「お任せします」と答える。

5分ほどで、宿に到着。たまにはタクシーもいいものである。

タクシーに乗る前に買ったデザートを食べ、そのまま就寝。1日目はこれにて終了である。そして2日目は、熊本に乗り込む。その模様は[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



## 男同士の九州紀行 / 熊本ラーメン編

2003年10月22日掲載

お送りしている会社の後輩との九州紀行も、4回目を迎える。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれをご覧ください。

2日目の朝、宿で朝食。朝食といっても、バイキング形式である。

しかし、おにぎり、パン、ジュース、みそ汁だけの簡単なメニュー。それでも、おなかが満たされるので十分である。

宿を出発し、バスで博多駅へ。特急「つばめ」に乗って、熊本に行くのだ。

実は、2001年3月に掲載した「九州ラーメン紀行」と全く同じ列車。博多を10:05に出発する「つばめ」7号である。

博多 西鹿児島間を結ぶ「つばめ」も、来年の3月13日に新八代 鹿児島中央間が開業する九州新幹線に名前を譲る。在来線の博多 新八代間は「リレーつばめ」となるので、在来線の「つばめ」に乗るのはこれが最後になるだろう。

「つばめ」7号は博多を定刻に発車。1時間15分で熊本に到着した。

ここから目指すラーメン屋まで、徒歩10分ほど。しかし、この日の熊本は福岡以上に暑かったのだ。

熊本の予想最高気温は36℃！ほとんど体温である。

今回の旅行では、タオルを持参しなかった。やむなく、宿のタオルを失敬して汗をぬぐうことになったのだ。

目的のラーメン屋に到着。ここは、前日も訪れた店である。

時刻は11時半、まだ昼食には早いせいか、行列はできていなかった。幸いにして、すぐに店内に案内されたのだ。

それでも、店内は満席。しかも、客は次から次へとやってくる。もう少し遅く来店していたら、列に並ぶことになっていただろう。

我々は、ついに熊本ラーメンを食べることになった。後輩に、同じ豚骨でも博多ラーメンと熊本ラーメンの違いを説明する。

後輩にどちらが好きかと訪ねると、「熊本はちよっと 」。量が足りなかったらしく、それも熊本の評価を下げた一因かも？

[\[トップページ\]](#)

ラーメン屋を出発し、市電で熊本城へ向かう。  
この先は[こちら](#)からどうぞ。





## 男同士の九州紀行 / 熊本市内編

2003年10月29日掲載

お送りしている会社の後輩との九州紀行も、いよいよ最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)はそれぞれをご覧ください。

熊本ラーメンを食べたあと、市電で熊本城へ。ここは、2001年3月に掲載した[「九州ラーメン紀行」](#)ではパスしたとことである。

市電を熊本城前で降り、熊本城へ。我々以外にも熊本城に向かう人々が多く、端から見ると15人ほどの団体旅行状態になっていた。



城の入口に来てビックリ。なぜか囲われているのである。

どうも復元工事をしているようで、加藤清正像に完成予想図が掲げてあった。でも、天守閣には囲いがしていなかったので一安心。

城内に入って、本丸へ上る。やはり日差しが暑い！

あまりに暑いので、休憩所にかき氷を食べる。これだけ暑いと、水分をとってもとんでも汗で出て行ってしまいそうだ。

休憩もそこそこに、天守閣に入る。さすがに、中は冷房が効いていて涼しい。

最上階に上り、熊本市内を一望。しばし休憩し、熊本城を離れる。

歩いて15分ほどで旧細川刑部邸へ。中を見学すると、昔ながらの日本家屋を通る風が涼しく感じられる。

一通り邸内を見学し終わると、何と冷茶のサービスが。昨日に引き続き、炎天下を動き回っている身にとって、これはありがたい。思わずおかわりをしてしまったのは、言うまでもない。

段山町（だにやままち）から市電に乗り、今度は水前寺成趣園へ。ここへは、おみやげを買いに来たのだ。

もちろん、園内も1周。園内にある出水（いずみ）神社には飲むと長生きするという水を口にする。

口にするだけでなく、直射日光で焼けた肌にもかけてみる。ほてった体にはちょうどよくクールダウンさせてくれる。

園内にある「古今伝授の間」で、幻のお菓子を購入。これは、前回の旅行でも購入したものである。

水前寺成趣園をあとにし、熊本市街へ。ここではコーヒーショップでまったりとする。

やはり、2日連続で強烈な日差しと暑さを体感すると、否応なしに疲れる。後輩と談笑しつつも、眠気が襲ってくるのだ。

いよいよ、九州ともお別れ。熊本18:00発の特急「つばめ」20号で博多へ向かう。

途中、車内販売のワゴンで弁当を買うが、後輩は買わずじまい。しかし、ここで夕飯を食わなかったばっかりに、飛行機内で空腹に襲われる。

博多に到着後、駅に直結した名店街でおみやげの明太子を購入。さらに、駅の売店で明太マヨネーズも買った。

地下鉄で福岡空港に向かい、20:30発の飛行機で羽田へと飛び立つ。

機内で窓の外を見るが、静岡上空あたりから雲に阻まれて下界が見えなくなった。陸地が再び見えたのは、着陸するわずか5分ほど前、富津上空である。

羽田に着陸し、機外に出ようとしたとき、またもや後輩にハプニング！ 手に持っていた明太子を、フライトアテンダントが「ゴミですか？」と勘違いして回収しようとしたのだ。

後輩が「おみやげです」というと、さすがにばつが悪そうに「失礼しました」。今回の旅行は、すべて後輩にハプニングが起きていた。

駐車場で駐車料金を払うと、1泊2日で5750円。昔は10000円近くとられてたから、ずいぶん安くなったもんだと感心する。

後輩を送り届け、自宅に到着。これで、男同士の九州紀行は完結した。

次回は、どこへ行こうか。

[\[トップページ\]](#)